

# 「助け合う高齢者」に向けた 友愛会員制度

北海道 網走市老人クラブ連合会

●クラブ数 39

●会員数 1816名（男性802名、女性1014名）



北海道  
網走市

## 友愛会員の制度と活動

網走市老連は、超高齢社会に対応する老人クラブの在り方を模索する中から、「助けられる高齢者」から「助け合う高齢者」になろうと、「助け合う老人クラブ」を目標に掲げて、ユニークな活動を展開してきました。このことがマスコミでも大きく報道され、平成26・27年の2年間、北海道老連の推進する「高齢者相互支援推進・啓発事業」のモデルクラブの指定を受けることとなり、これを契機に更にその取り組みを模索して「友愛会員制度」を設けることとなりました。

友愛会員制度は会員同士の助け合いを推進することを目的として、高齢者同士助け合いながら、いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりの一助となるものです。それを通して老人クラブ活動の活性化を目指しております。2年間の結果を踏まえて、28年度からは網走市の高齢者福祉政策の一環として支援を受けることが可能となり、今日に及んでおります。

友愛会員となるためには、市老連が毎年開局ではそれを取りまとめ、かかった経費の一部を補助する仕組みになっております。友愛会員同士の情報共有も行っております。

## 関係団体との連携

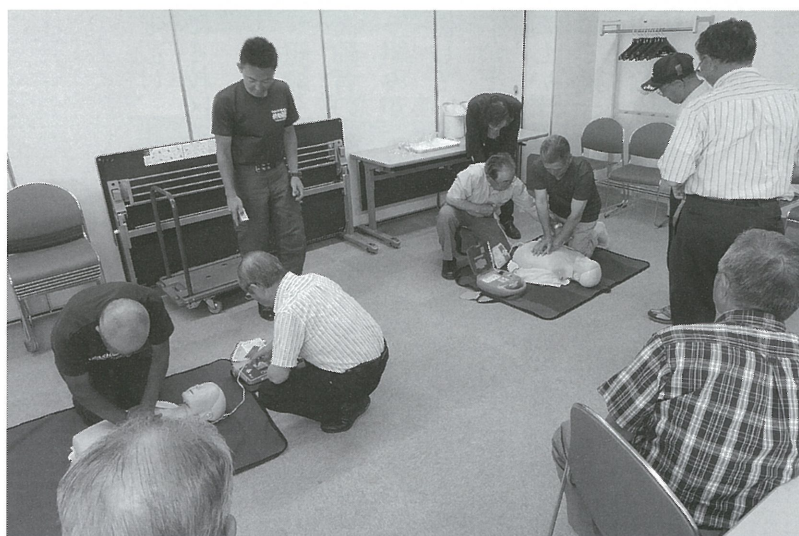
友愛会員は年に一度「友愛会員懇談会」を開催して、研修を積み重ねてきました。この懇談会には民生委員・町内会連合会・地域包括支援センター・市役所の担当者なども招き、

昨年は総数60名にも及びました。それぞれ「良かったこと」「困ったこと」の課題を持ち寄り、少人数のグループに分かれて率直に話し合い、課題解決策を見つけ出すように努力しております。例を挙げると「困ったこと」では、訪問先の人の耳が遠くて話が通じない、一人暮らしの人が入院して連絡が取れなくなったり、認知症のひととの会話が難しいなど。「良かったこと」では、一人暮らしの安否確認ができて互いに安心できる、人間関係がよくなったなどがあります。

30年度現在、友愛会員は14クラブに86名おりますが、将来は全39クラブ、200名に増やしたいと考えています。現在はクラブ会員を対象に活動が行われていますが、自然な流れとして会員以外の人々にも救いの手が伸び



講座修了生、今年は15名



「友愛会員養成講座」にて救急救命講習

催する「友愛会員養成講座」を受講します。修了した会員には認定書を交付して友愛会員として登録する制度になっています。養成講座の内容は、1)友愛会員制度と活動記録表の記載について、2)初級ボランティア講座、3)認知症サポーター養成講座、4)救急救命講習についてで、「活動の手引き」の冊子を基にして行われます。



「友愛会員懇談会」にて解決策を探る

ており、それにより会員の増加にもつながっています。個人情報の取り扱いについては特別の注意を払いつつ、経験知の集積によって、より良い活動に結び付けて行きたいと願っております。

(会長 磯江良三)